

# ほけんだより

## 麻しんが世界・国内で流行しています

米国・英国をはじめ世界各地で麻しんの流行が拡大しています。日本でも感染報告が急増しています。麻しんは感染力が極めて強く、残存する感染症の中で最強クラスであり、インフルエンザの約10倍ともいわれています。適切なワクチン接種を受けていなければ誰でも感染するリスクがあります。



### 潜伏期間・周囲への感染可能期間

感染から発症まで 7～21日(平均10～12日)  
発症の1日前から解熱後3日を経過するまで  
感染力あり  
※症状がなくても他者に移す期間があります

### かかりやすい特徴

- ワクチン未接種・接種歴不明
- 1回のみ接種(2回未完了)
- 過去に罹患歴のない成人
- 1歳未満の乳児

麻しんを疑う症状がある場合は、外出を控え、受診の際に事前に医療機関に連絡の上、医療機関の指示に従って対応してください。

### 症状

第1～4病日：カタル期

#### 38～39℃の発熱、鼻水、咳、結膜炎

この段階が最も感染力が高い時期。風邪と見分けがつきにくく、特徴的な口の中の白い斑点(コプリック斑)が2～3日間だけ現れます。

第4～5病日：発疹期

#### 高熱(40℃前後)と全身への発疹拡大

耳の後ろ・顔から始まる赤い発疹が、体幹・四肢へと広がる。発熱が再上昇し、この時期が最も体調が悪くなる。

第7～10病日：回復期

#### 発疹の消退と解熱

合併症がなければ徐々に回復しますが、麻しんウイルスは感染後に既存の免疫記憶細胞を破壊するため、免疫機能の低下が数週間～数ヶ月続きます。これを免疫健忘(immune amnesia)といい、回復後も他の感染症にかかりやすくなることが知られています。



### 修飾麻疹に注意

近年、1回のワクチン接種を受けた方や、過去に接種歴のある方が麻しんに感染した場合、上記の典型的な経過をたどらない「修飾麻疹」の報告が増加しています。発熱が軽度だったり、発疹が淡く分かりにくかったり、コプリック斑が見られないこともあります。症状が軽くても感染力は保持されている場合があるため、麻しんの流行期には「発熱+発疹」があれば麻しんを疑い、医療機関にご相談ください。

**各家庭で、家族全員がワクチン2回  
接種済み確認をお願いします**

母子手帳でわかります！

母子健康手帳

